

平成28年10月12日(水)
国土交通省 九州地方整備局

記者発表資料

九州地方整備局管内における**住民サービス部門モデル「道の駅」**が認定されました！

～全国各地の「道の駅」の模範となって質的向上に寄与します～

「道の駅」は、平成5年の制度創設以来、現在では全国で1107箇所につながり、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段として、その重要性が高まっています。

国土交通省では、「道の駅」の質的向上に向けた取組として、全国各地の「道の駅」の模範となって質的向上に寄与する“特定テーマ型モデル「道の駅」”を新たに募集したところです。

今般、“住民サービス”をテーマとして募集し、有識者懇談会における審議・選定を経て、認定対象を国土交通省として決定しましたので、以下のとおりお知らせします。

全国で6箇所認定、九州地方整備局管内では、1箇所認定されましたのでお知らせします。

1. 認定結果

○ 平成28年度 住民サービス部門 モデル「道の駅」 認定数 1箇所

・道の駅「^{さか たに}酒谷^{にちなん}」（宮崎県日南市）

【特長】「道の駅」の収益を自治組織に還元し、住民主体で「道の駅」を地域の自治・交流活動の拠点として育て、「小さな自治」を形成。

○ 認定された「道の駅」は、全国の「道の駅」からの視察及び講師の要請に対応するなど、「道の駅」の質的向上に貢献する役割を担います。

2. その他

○ 後日、認定証を交付する場を開催する予定です(別途お知らせします)。

詳細は以下のホームページにも掲載しています。

<http://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/index.html>

国土交通省 九州地方整備局

TEL:092-471-6331 (代表)

TEL:092-476-3534 (交通対策課 直通)

くすもと あつし

道路部 道路情報管理官

楠本 敦 (内線:4114)

あさい ひろみ

交通対策課長

浅井 博海 (内線:4511)

特定テーマ型モデル「道の駅」の概要

- 地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段として、「道の駅」の重要性が高まっている。
- 全国各地の「道の駅」の模範となって広く周知することで、質的向上に寄与
- 「道の駅」が有する個々の「機能」が異なる点を踏まえ、模範性を高めるために、テーマ（部門）を設定
- 平成28年度は、テーマ（部門）として“住民サービス”を設定

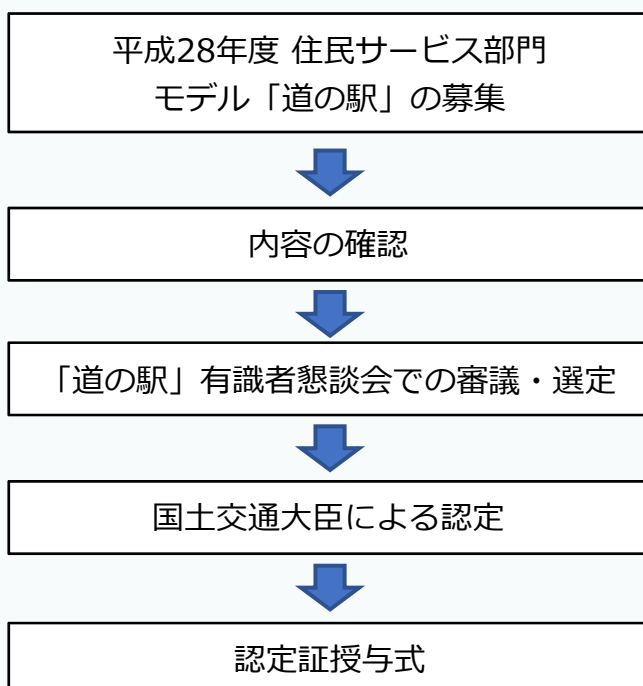


平成28年度 住民サービス部門 モデル「道の駅」

国土交通大臣認定

中山間地域及び漁村地域等において、高齢化社会に対応した地域福祉向上のための取組、地域課題に対応した住民生活支援のための取組、小さな拠点形成を目指した取組など、公共の福祉を増進することを目的とした地域住民へのサービス向上に資する取組を、現在実施し成果をあげているもの

(認定の流れ)



「道の駅」有識者懇談会

委員長：石田 東生〔筑波大学大学院
システム情報工学研究科教授〕

楓 千里〔(株)JTBパブリッシング
取締役 法人情報事業部長〕

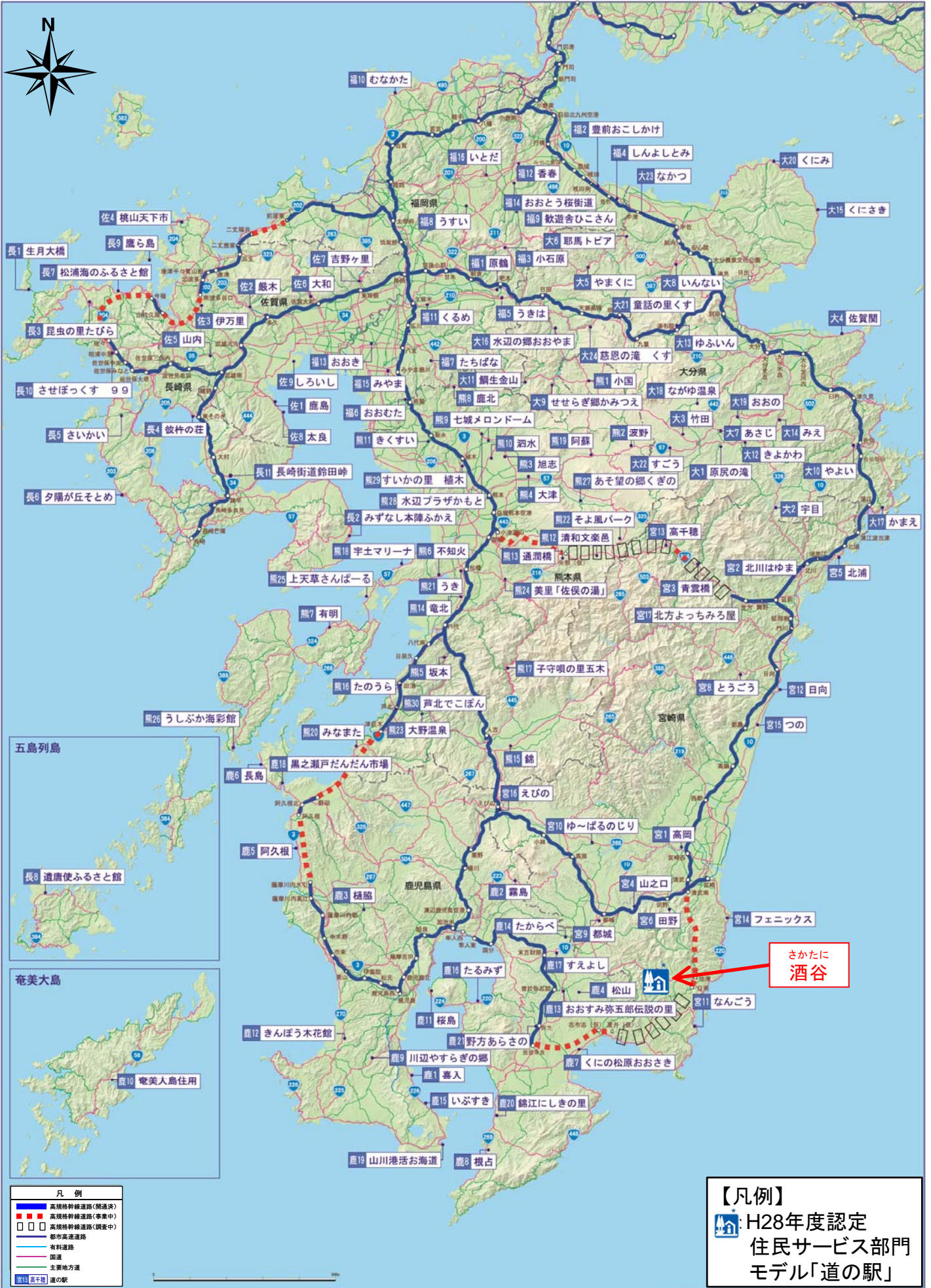
篠原 靖〔跡見学園女子大学
マネジメント学部准教授〕

根岸 裕孝〔宮崎大学
地域資源創成学部准教授〕

山田 知子〔比治山大学
現代文化学部教授〕

(敬称略・五十音順)

九州地方整備局管内「道の駅」位置図



この図表の作成に当たっては、関係機関の協力を得て、関係機関の最新情報に基づいて調査を実施した。ただし、掲載の情報は、最新の情報と異なる場合があります。

- 「道の駅」の収益を、「酒谷地区むらおこし推進協議会」に還元することにより、地域の自治活動や交流活動、雇用創出の拠点として「小さな自治」を形成。
- 小中学生の学びの場、地域住民の交流の場として、郷土料理や伝統文化の継承など地域活性化に資する取組を実施。
- 高齢者の見守り活動も兼ねた弁当宅配・農作物の集荷代行等の住民サービスを実施。



地域活性化に資する取組

- ◇小中学生を対象に、郷土料理・特産品加工の体験学習を実施。
(年4回程度、23人/2校が参加)



- ◇コミュニティの場として、生涯・体験学習を実施。
(年15回程度、21人/回が参加)



住民サービスの実施

- ◇地域の高齢者への弁当宅配、農作物の集荷代行等について、採算ラインに乗らない少人数でも、地域福祉サービスとして提供。



- ◇地域高齢者によるスポーツ大会
(昼食支援)(年4回、95人が参加)

